



海濶花鳥躍  
空任鳥飛

# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2017 July to September, vol.195

京都国立博物館

だより

二〇一七年  
七八九月号

特集展示

名刀聚英—永藤二の愛刀—

特集展示

古書画へのまなざし

—伴實コレクション—

特集展示 京都水族館連携企画

京博すゝぞくかん

—どんなおさかながいるのかな?—

特集展示 大政奉還150年記念

鳥羽伏見の戦い



特集展示

# 名刀聚英

しゅうえい

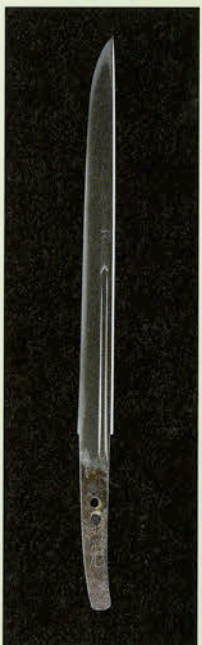
— 永藤一の愛刀 —

平成29年6月13日(火)～7月17日(月・祝)  
【平成知新館 1F 2・5】

永藤 氏 九〇九、九九九は、医学博士として製薬会社で活躍し、業界に認められた存在であるとともに、稀代の愛刀家としても広く知られていました。京都国立博物館では同氏の蒐集した名刀の数々を、「名刀聚英—永藤一の愛刀—」と題して展観する特集展示を行います。ここでは、展示される作品の中から金熨斗刻鞘大小拵をご紹介します。

拵とは、刀身の外側をおおう鞘や柄など、いわゆる外装部分のことです。武士が長短一刀をセットとしてもちいることは、古くからあったようですが刃を上に向けて腰に指す「刀」と「脇差」の一本指しは戦国時代に行われて以後定着するにともないデザインを統 した「大小拵」も制作されるようになりました。その作りは時々の流行や注文主の趣向を反映して、豪華絢爛や質実剛健などさまざまです。

この大小拵は、かつて筑後柳川藩初代藩主、立花宗茂 五六七、六四一 の指料であったと伝えられて有名な作品です。鞘は俵形の凹凸を 定の幅で刻



重要文化財  
短刀 銘吉光 (名物秋田藤四郎)  
永藤一氏旧蔵 京都国立博物館



重要文化財 金熨斗刻鞘大小拵 永藤一氏旧蔵 京都国立博物館

んだ「印籠刻」に 腰元は緑色の青漆を塗り、鞘先は金を薄く延ばした熨斗板を貼った「金熨斗」としています。柄は鮫皮に似せて金板に突起を打ち出した「金打鮫」です。大小はそれぞれの柄の作りや、金熨斗や青漆の色合い、金熨斗の削ぎ方が逆であることなど、やや統 を欠くところもあります。立花家の『明和四年十月御腰物由来覚』(七六七)には、「一代藩主の立花忠茂の代に 初代宗茂より相伝した「御小脇差 越前下坂兼先」の拵として「金之打鮫御柄熨斗之金」を制作したとの記述があり、脇差分はこれに該当するのかもしれない。いずれにせよ、豪壮な印象を与える印籠刻や、緑色と金色を片身替わりに対比させた華麗な意匠は、桃山の雰囲気を残しつつも、金具などの彫金には江戸時代の洗練のうかがわれます。大小拵の初期の作例として貴重な存在であり、昭和二十年 九五六 には国の重要文化財に指定されています。(伊藤信一)

特集展示

## 古書画への

### まなざし

— 伴實コレクション —

平成29年6月13日(火)～7月23日(日)  
【平成知新館 1F 3】

京都国立博物館における寄贈コレクションといえは、古写経を中心とした「守屋コレクション」、中国近代絵画の「須磨コレクション」などが有名です。これらは、館内での展示のみならず、しばしば他館の展覧会への貸し出しに供されていることから分かるように、館蔵品のなかで重きを占めるものも多く、その充実に大きな役割を果たしています。

さて、当館は昨年度、伴實氏が生涯にわたり蒐集した古書画四十七件(絵画十四件、書跡三十三件)を、ご遺族の方よりご寄贈いただき、「伴實コレクション」が新たに館蔵品として加わりました。伴氏は商売を営むかたわら、五十年ちかくも自らマ、ケツトに足を運び、おもに古文書を中心として、眼鏡に適ったもののみを集めました。

長期におよぶ蒐集で、氏が古書画に注いだまなざしは鋭さだけではありません。確固たる信念に基づき入手した作品には、収納する箱を作成する、自分好みの表装をほどこすという具合に、いずれもが温もりを溢れています。厳しさと温かさ、この両立こそがコレクションの最大の特徴となりましょう。

ここで、それぞれの分野を概観すると、絵画は室町時代の「柿本人麿像」から、江戸時代の幸野樸嶺による「東山名所図屏風」まで、幅広い分野にわたる中近世の作品によって構成されています。書跡は「明正天皇宸翰消息」に代表される近世の宸翰(天皇の書)、「上杉謙信書状」や「東寺年中行事」をはじめとした文書や記録、「白氏文集巻第四断簡」といった文学や和歌、と三つに大別でき、かなりはっきりとした目的意識がうかがえます。とくに、書跡は「聖教紙背文書」のように紙背をとまなう、あるいは「東寺関係文書」のように長らく所在不明であったなど、学術的に貴重な作品が多くあります。

今回の展示では、古美術を愛する真の「コレクター」であった伴實氏が蒐集した古書画のなから、代表的な絵画三件と書跡十五件、計十八件をご紹介します。(羽田 聡)

平成知新館  
名品ギャラリー

3F-1 陶磁

【染付けの美/日本と東洋のやきもの】  
6月17日(土)～9月3日(日)

3F-2 考古

【弥生時代の青銅器】  
6月17日(土)～9月3日(日)

2F-1 絵巻

【兵—軍記物語と武勇譚—】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【特集展示 京博すいぞくかん】  
7月25日(火)～9月3日(日)

2F-2 仏画

【密教図像の美—入魂の 発技—】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【特集展示 京博すいぞくかん】  
7月25日(火)～9月3日(日)

2F-3 中世絵画

【霊雲院の障壁画 — 狩野元信晩年期の名作 —】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【特集展示 京博すいぞくかん】  
7月25日(火)～9月3日(日)

2F-4 近世絵画

【祝いの調度—祭礼図屏風】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【特集展示 京博すいぞくかん】  
7月25日(火)～9月3日(日)

2F-5 中国絵画

【伝説の画家たちが描いた仏画】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【特集展示 京博すいぞくかん】  
7月25日(火)～9月3日(日)

1F-1 彫刻

【閻魔と地蔵/日本の彫刻】  
6月13日(火)～9月3日(日)

1F-2 特別展示室

【特集展示 名刀聚英—永藤一の愛刀—】  
6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【特集展示

大政奉還 五〇年記念 鳥羽伏見の戦い】  
7月25日(火)～9月3日(日)

1F-3 書跡

【特集展示 古書画へのまなざし — 伴實コレクション —】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【至高の書跡】

7月25日(火)～9月3日(日)

1F-4 染織

【正倉院裂と古代の染織】  
6月13日(火)～7月23日(日)

【子どもの衣裳】

7月26日(水)～9月3日(日)

1F-5 金工

【特集展示 名刀聚英—永藤一の愛刀—】  
6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【甲冑】

7月22日(土)～9月3日(日)

1F-6 漆工

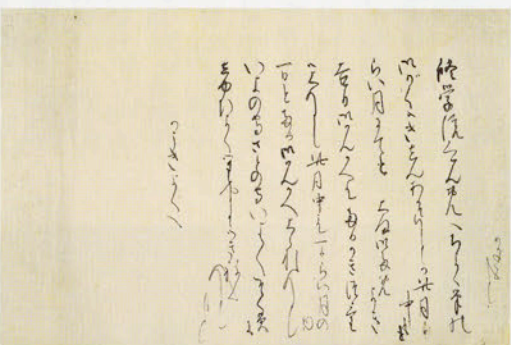
【化粧道具】  
6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【文房具】

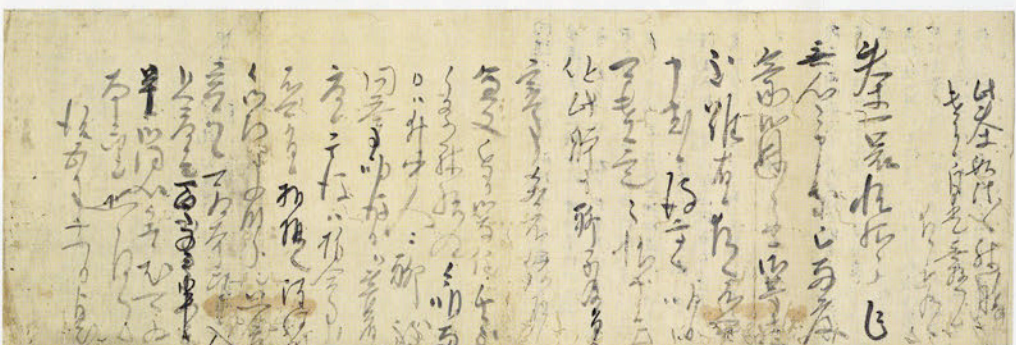
7月19日(水)～9月3日(日)



東山名所図屏風 幸野樸嶺筆 伴實コレクション 京都国立博物館



明正天皇宸翰消息 伴實コレクション 京都国立博物館



聖教紙背文書 伴實コレクション 京都国立博物館



特集展示 京都水族館連携企画

# 京博すいぞくかん

—どんなおさかないるのかな?—

平成29年7月25日(火)～9月3日(日)  
平成知新館(2F-1-5)

この夏、美術の中にすむ水の生き物が大集合して、京都国立博物館に「すいぞくかん」が現れます！この特集展示は、「京都水族館」と連携した、京博はじめての子ども向け展示です。夏休み、子どもとどこへ行くか迷っている大人の皆さんのために、子どもと、一緒に楽しめる展示の見どころをご紹介します。会場では五つのテーマに沿って、水のいきものと人間が織り成す世界をめぐるります。

## 第一章 おさかな大集合！

まずはたくさんのお魚が、みなさんをお出迎えします。身近なコイやフナ、ナマズやカニのほか、日本にはいない中国の魚や、文字になつた魚たちもいます。どんな魚がいるか探してみましよう。



漢魚図 等本筆 鷹仲和賢 京都国立博物館

ヌルっとした手触りまで感じるね！



紅蓮遊魚図 齊白石筆 京都国立博物館

今日はボクたちが案内するよ！



## 第二章 思いをたくされた魚たち

魚たちの姿や生き方に、私たち人間は様々な願いを重ねてきました。急流をさかのぼって龍になると信じられた鯉は「立身出世」のシンボル、腰の曲がった海老は「長生き」を表します。彼らが持つ特別な力を分けてもらうために、私たちは絵や着物、道具に魚たちの姿を写し、身近に置きました。どんな思いをたくされ、どんな時に使われたのか、想像しながら見てみましょう。



亀に渦巻時絵盃 美濃屋製 京都国立博物館



亀に流水時絵盃 美濃屋製 京都国立博物館

カメは長寿のシンボル。この盃でお酒を飲んだら、長生きできそう

どんな時に着たのかな？

網目と注連縄に海老文様帷子 京都国立博物館

絵の前に立つと、渦巻く雲に飲み込まれそう



## 第三章 伝説の水のいきもの

人間は水の中で生きられませんが、未知の世界に人々は想像を膨らませ、水にまつわる様々な伝説や物語が生まれました。山幸彦や浦島太郎は、海の中の豪華な宮殿に招かれて世にも奇妙な体験をします。「京博すいぞくかん」では他にも、巨大な亀や、龍、人魚、河童など、水族館でもお目にかかれない伝説の水のいきものが登場します。



重要文化財 蓬萊山時絵硯箱 京都国立博物館

巨大な亀の背中にある蓬萊山。ここには不老不死の薬があるんだって



酒飯論絵巻(部分) 京都 三時知恩寺

## 第四章 水のめぐみ

ヤス 釣り針、網など、あの手この手で人間は魚を捕まえ、食べてきました。水に恵まれた日本では、魚は重要な食料であり、特別な日の食卓を飾るごちそうでもありました。絵巻の中をのぞいてみると、大きな魚や海老、鮑をはりきって調理する人の姿が見えます。魚や料理の仕方は今と違うところもありますが、美味しいものを食べたい気持ちは、いつの時代も変わりませんね。



美味しいごちそうを作るぞ！

## 第五章 美術になった水のいきもの

水のいきものは暮らしを彩る工芸品や装飾品にも加工されました。夜光貝や鮑の虹色に輝く貝殻は漆の箱を美しく飾り、ツカエイのザラザラした皮は、刀の柄などに使われました。海亀(タイマイ)の鱗色に透き通る鱗甲は、簪などになりました。キラキラとまばゆい作品を見ながら、いきものの体の不思議についても考えてみましょう。

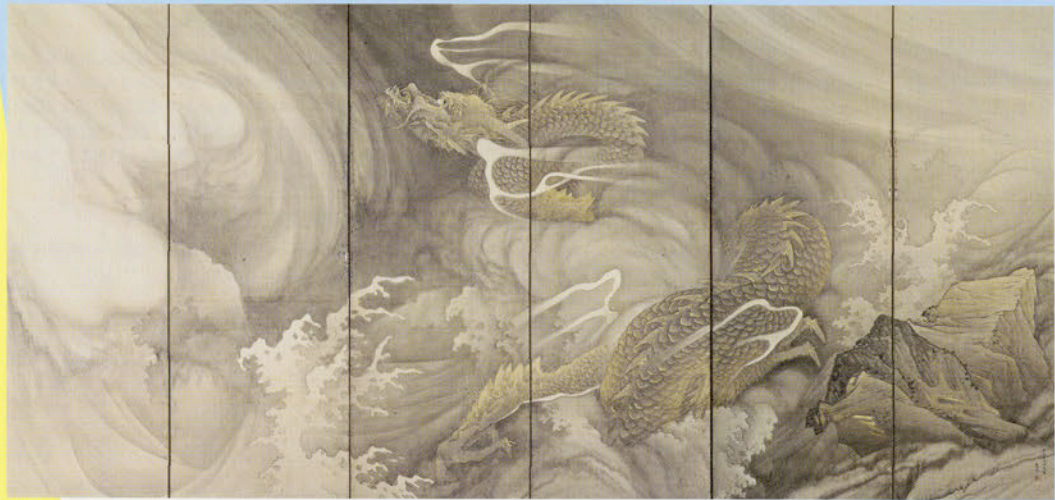


花飾りびらびら簪 京都国立博物館

小さな鱗も、鱗甲でできてる！

模様が梅の花みたい

重要文化財 社丹造梅花皮紋鞘腰刀拵 京都国立博物館



重要文化財 雲龍図屏風(右隻) 円山応挙筆



大漁大漁！

恵比寿鯛釣文様でんち 京都国立博物館

今回の展示では特別に、京都水族館の下村館長によるひとこと解説もあります。また京都水族館では7月1日から9月3日まで、京都国立博物館連携企画「すいぞくかんとはくぶつかん」を開催します。博物館で展示を見た後は、京都水族館で実際の魚と比べるのも楽しいですね。両館では、展示のほかにたくさんイベントを企画しています。暑い夏、一つの館で、涼しい水の世界がみなさんをお待ちしています。

水谷亜希

特集展示  
大政奉還一五〇年記念  
鳥羽伏見の戦い



平成29年7月25日(火)～9月3日(日)  
平成知新館(1F-2)

今年(平成29年 八六七)に行われた大政奉還から数えて五〇年となります。歴史を振り返る良い区切りといえるでしょう。

源頼朝が鎌倉幕府を開いて以来の長い武家政権が終わりを迎え、十五代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返上したのは慶応二年十月半ばのことでした。その直後には坂本龍馬らが『大政奉還建白書』に基づく公議政体制国家の創設を模索しましたが、龍馬の死後、岩倉具視や薩摩藩の大久保利通らは王政復古を企て、徳川慶喜を徹底排除する方針でことを強硬に進めました。

慶応四年 八六八 すなわち戊辰の年の正月、大坂城に居た徳川方は京都の朝廷から薩摩勢力を排除するために軍隊を大坂から京都へ進めました。月二日の夕刻、京都南郊の鳥羽街道で入京しようとする旧幕府軍 東軍 と入京させまいとする薩摩軍(西軍)との間で戦端が開かれました。その砲声を聞いた伏見の街でも対峙していた会津藩兵や新選組と薩長兵との間で戦闘が始まりました。東軍は兵力こそ大きかったものの戦意旺盛な薩摩兵や長州兵主体の西軍に各所で敗れ、戦線を後退させます。やがて西軍に錦旗が掲げられると淀川沿いに東軍は押しもどされ 戦線は崩壊します。徳川慶喜は大坂城を脱出し、汽船で江戸へ戻ることになりました。この鳥羽伏見の戦いが西軍 官軍 の勝利に終わったことで西日本は朝廷側づくことになったのです。そののち夏から秋にかけて東征軍が関東 東北を攻める戦争(戊辰戦争)が続きました。ふりかえれば正月二日に鳥羽街道の上で発せられた薩摩軍の砲声こそが日本近代史の夜明けを告げるものであり、明治維新国家の始まりだと評価されています。

今回の展示ではこの鳥羽伏見の戦いに関わった作品を集めて紹介します。おもな展示作品は戦場にほどちかい城南宮が所蔵するものとして薩摩藩兵の隊旗「一番砲隊旗」「遊撃隊旗」「監軍旗」などがあります。また薩摩兵が被った円錐形の帽子(鉢振)や薩摩方とされる四斤山砲の砲弾などを展示します。

また鳥羽伏見の戦いを風刺した当時の瓦版や明治時代に描かれた錦絵、関連する資料などを展示しこの戦いの様子と意義を紹介いたします。

宮川 慎



瓦版「鳥羽伏見戦」(部分) 慶応四年(1868)



錦絵「城中大火図」(燃える大坂城)(部分) 明治時代

よみもの

文化財の保護と活用

観光行政とのかかわり

京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊

文化庁の地域文化創生本部が当館に近い東山の地に先行移転して程ない平成二十九年四月十六日、山本幸三地方創生担当大臣の口から「観光行政の推進に文化財保護を掲げて抵抗する 番のガンが文化学芸員だ」との言葉を頂戴してしまっ。報道されると即座に批判が殺到し、大臣は撤回された。が、個人的にはこうした本音の発言を言葉狩りする気にはならない。観光などによる地方の活性化は、国土の均衡発展や行政システムが依存している地域共同体の維持に必要であって、そのためのお金の動きを継続的に作ることに腐心しているがゆえの流れで理解すべきものである。むしろ私などは現状の内閣官房主導の観光政策推進側のトップの本音を聞かれて、いろいろ腑に落ちると共に、観光振興行政と文化財保護行政とのコミュニケーションの不足を痛感したのである。

ただ、最初に誤解を解いておくと、学芸員はあくまで文化庁を頂点とする文化財保護行政の体系の末端に連なっているだけである。指定品の公開日数や回数などの公開に関する諸制限は「国宝 重要文化財の公開に関する取扱要項」として通達という形で地方公共団体の教育委員会に下りてきており、これに従っている。未指定品はこの規制に外れるではないかという意見もあるかと思うが、未指定だから価値がないわけではなく、物質として同じ特性を持つ以上、指定品に準じた扱いがモラルとして要求されるわけである。

なぜこのような規制が掛けられているかというと、日本の文化財は素材の特性上、非常に脆弱だからである。地方によっては公立博物館 美術館が、教育委員会ではなく、地域観光 産業振興の観点から首長部局に属せしめられていることからわかるように、学芸

国際博物館会議 (ICOM) 大会が  
京都で開催されます!



平成31年(〇九)9月1〜7日に二年に一回、世界中の博物館関係者3000人以上が、堂に会する第25回国際博物館会議 (ICOM) 大会が京都で開催されます。  
メイン会場は国立京都国際会館で、京都国立博物館もサブ会場の一つとなる予定です。現在、当館の佐々木館長を委員長とするICOM京都大会組織委員会の下で準備が進められており、博物館を核とした関西全体の盛り上がり期待されています。今後の動きにぜひご注目ください。  
(栗原祐司)

開館120周年記念 特別展覧会「国宝」  
関連プレ講座開催!

開館120周年を記念して41年ぶりに京博で開催される国宝展。7月より、当館研究員による国宝展プレ講座が開催されます。展覧会をよりお楽しみいただける内容となる予定です。ぜひご聴講ください!

\* 講座の詳細については、裏面をご覧ください。聴講には当日の観覧券等が必要です。

公式キャラクター  
トフリんの  
LINEスタンプが登場!



平成27年(2015)に生まれた京都国立博物館の公式キャラクタートフリん。このたび新たにLINEスタンプが登場しました!可愛いしぐさややんちゃなポーズを集めた全40種類を販売中です。ぜひご利用ください!



員も文化財が観光コンテンツの一つであることは十分認識している。しかし、文化財を消耗するような使い方は文化財保護行政に連なる者としてできないのである。文化財の現地公開は、環境のコントロールが難しいので問題はあるが、意義は高い。文化財は寺社所有のものが多く、寺社は檀家や氏子で支えられている。当館は、明治維新以降経済的基盤を失った寺社の文化財を保全する目的で創設された経緯から寄託品が多く、寺社とのお付き合いが深い。やはりたまにはご覧頂かないと所蔵者側に愛着がわかないのであって、それゆえに寺社の特別公開にはなるべく協力している。この愛着がなぜ必要かというと、そのもの持つ文化財的価値と保存への注意喚起もさりながら、修理で金銭的な負担をお願いしないといけないからである。文化財的価値が高い作品ほど、その修理には高度な技術が必要となり、それは人件費として観面に施工費に反映される。筆者は職掌上、修理の資金関係の相談を受けることが多く、理解を得るのに苦心している。

しかも、この寺社を支える地方の地域共同体が崩壊しつつあり、現在の寺院数は今後十五年の間に六割に減ってしまうという研究もある。そうなると、修理で公的補助の枠を広げることが将来的に想定していかなければならないが、原資が税金である以上、一般の理解が必要になってくる。そのためにも公開が重要になる。筆者は「見て頂くのも文化財保護」と口癖のように言っているが、その趣旨はここに尽きる。

書画の修理は素材の問題から百年毎に行うのが望ましいとされている。大切にされてきた昔より更に積極的に文化財を活用するとすると、そのサイクルは必然的に短くなる。また、寺社の文化財は信仰の対象であったからこそ後世に残そうと努力されてきた面があり、その点への配慮も必要である。筆者は、観光行政の背後にこれらに対する覚悟と対策があるのかということがむしろ問題になると思うのである。文化財保護が人によって成り立つ以上、手を取り合えるとは考えているのであるが...

## 土曜講座

- 7月1日「なぜ仏画に国宝が多いのか—これがわかれば美の免許皆伝—」\*\*\*  
京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊
- 7月8日「国宝展と武器 武具、仏具—日本金工をはぐくんだ沃土—」\*\*\*  
京都国立博物館企画室長 伊藤信二
- 7月15日「陶磁の国宝、わずか14件—そこからみる日本文化—」\*\*\*  
京都国立博物館研究員 降矢哲男
- 7月22日「日本人が憧れた国宝の中国絵画」\*\*\*  
京都国立博物館主任研究員 吳孟晋
- 8月5日「日本の古い絵画からみた水辺のいきもの今昔物語」\*  
京都水族館 館長 下村実氏
- 8月19日「鳥羽伏見の戦いの戦場をたどる」\*\*  
京都国立博物館列品管理室長 宮|禎一
- 8月26日「美術の中の水のいきもの」\*  
京都国立博物館研究員 水谷亜希
- 9月2日「国宝 最澄と空海の袈裟」\*\*\*  
京都国立博物館工芸室長 山川 暁
- \*…特集展示「京博すいぞくかん」関連講座 \*…特集展示「鳥羽伏見の戦い」関連講座  
\*\*\*…特別展覧会「国宝」関連講座  
※平成知新館 講堂にて 午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料（ただし観覧券等が必要）。  
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

## イベント

《開館120周年記念「解説と実演による文楽鑑賞入門」》  
日 時 7月2日 日 13:00 開場 13:30 開演  
会 場 平成知新館 講堂（地下1階）  
プログラム 太夫の解説と体験（豊竹芳穂太夫） 三味線の解説（鶴澤清丈）  
人形の解説と体験（吉田蓑紫郎） 実演 牛若丸 弁慶 五条橋  
入場料 1000円（全席指定）  
※就学前のお子様のお入場はご遠慮ください。  
※チケット提示により平成知新館名品ギャラリーへもご覧いただけます（当日のみ有効）。  
※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。  
申し込み先：お電話／博物館事業推進係 075-531-7504（月～金の10～12時・13～17時に受付  
\*祝日は除く）WEB／<http://www.kyohaku.go.jp> 【文楽公演】申し込み画面

《京都 らくご博物館 夏》  
日 時 8月4日（金）13:30 開場 14:00 開演  
会 場 平成知新館 講堂（地下1階）  
出 演 〈解説〉桂歌之助 桂小鯛  
〈落語〉桂二乗 桂米紫 桂まん我 桂南天  
入場料 3100円 キャンパスメンバーズは学生証提示により2500円  
高校生以下2000円  
親子セット料金4500円 一般1名、高校生以下1名のペア券）  
※以上すべて税込、全席指定、当日の名品ギャラリー観覧料を含みます。  
\*高校生以下の方は、ご入館の際に、チケットとあわせて年齢のわかるものをご提示ください。  
※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。  
申し込み先：お電話／博物館事業推進係 075-531-7504（月～金の10～12時・13～17時に受付  
\*祝日は除く）WEB／<http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【夏】申し込み画面

## これからの展覧会

- ◆開館120周年記念 特別展覧会 国宝  
2017年10月3日（火）～2017年11月26日（日）
- ◆新春特集展示 いぬづくし—干支を愛でる—  
2017年12月19日（火）～2018年1月21日（日）
- ◆特集展示 御所文化を受け継ぐ—近世・近代の有職研究—  
2017年12月19日（火）～2018年1月28日（日）

## 国立博物館の展覧会

- 【東京国立博物館】  
日タイ修好130周年記念特別展 タイ～仏の国の輝き～  
2017年7月4日（火）～8月27日（日）
- 【奈良国立博物館】  
1000年忌特別展「源信 地獄 極楽への扉」  
2017年7月15日（土）～9月3日（日）
- 【九州国立博物館】  
特別展 世界遺産 ラスコール展 クロマニヨン人が見た世界  
2017年7月11日（火）～9月3日（日）

## ◆ 明治古都館休館のお知らせ ◆

京都国立博物館では、免震改修の基本計画を進めるため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【7～9月の名品ギャラリー休止の予定】

名品ギャラリー休止期間 9月5日（火）～10月1日（日）

\*上記期間は、庭園のみ開館します。

## ご利用案内

【開館時間】 9:30～17:00

\*6月の金、土曜日は20:00まで開館、7・8月の金、土曜日はおよび9月1日（金）、2日（土）は21:00まで開館  
\*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】 一般 520円（410円）  
大学生 260円（210円）

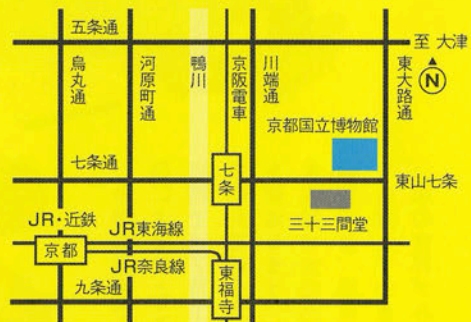
\*（ ）内は団体20名以上、高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料（要証明）  
\*庭園のみ開館時観覧料 一般260円（210円）（庭園ガイド冊子付き）、大学生以下、満70歳以上の方は無料（要証明）

【休館日】 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）

## アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館 三十三間堂前下車すぐ  
プリンスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分  
近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分  
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分  
阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分  
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付 宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2017年7月1日 デザイン 谷なつ子  
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社  
ライブアートブックス

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM